

PMによる研究開発機関の追加及び資金配分の変更について

「革新的研究開発プログラム運用基本方針（平成26年2月14日総合科学技術会議決定）に定めるとおり、研究開発機関の選定及び資金の配分は、一義的にプログラム・マネージャー（PM）の権限であるが、**PMに関係する機関（PMとの利害関係機関）又は日本国外の機関を研究開発機関として選定、あるいは、選定後の当該機関への研究開発資金の配分を変更（増額）**する場合は、「革新的研究開発プログラム運用基本方針取扱要領」（平成26年2月27日総合科学技術会議革新的研究開発推進会議決定）に基づき、ImPACT推進会議による承認が必要（当該機関の必要性、合理性、妥当性を判断）。

1. PMによる研究機関の追加について

下記の3名のPMが研究機関を追加するにあたり、田所PMの機関については、日本国外の機関を研究開発機関に選定する目的で、ImPACT推進会議に対して承認を求めるもの。また、佐野PM、八木PMに関する機関の選定については、ImPACT推進会議に対して研究開発機関の確認（適切な研究開発機関が選定されているか、PM関係機関や日本国外の研究開発機関への該当の有無）を求めるもの。

PM	追加予定機関数	うち指名によるもの	PM関係機関または日本国外研究機関
田所	1(1)	1(1)	Texas A&M University (米国)
佐野	1(0)	1(0)	-
八木	1(0)	1(0)	-
合計	3(1)	3(1)	

() : PM関係機関もしくは日本国外研究機関数

・田所PM：タフ・ロボティクス・チャレンジ

5種のロボットプラットフォームを安全に運用するための操縦インタフェースの開発等を行うフィールド評価・安全プロジェクトにおいて、潜在的なヒューマンエラーの認識、ヒューマンエラーを減少させる手法の検討及び、ロボット操縦インタフェースの使い勝手の向上を目的として、米国のディザスターシティ（大規模常設訓練施設）の運営に携わっており災害対応ロボットに関して深い知見を有し、また、操縦インタフェースが異なる複数の種類のロボットを災害現場にて同時運用してきた実績がある当該研究機関を非公募（指名）により追加するもの。

（追加研究機関）

実施プロジェクト	研究機関名	研究代表者名
フィールド評価・安全プロジェクト	Texas A&M University Engineering Experiment Station	Robin R. Murphy

・佐野PM：ユビキタス・パワーレーザーによる安全・安心・長寿社会の実現

プロジェクト1「レーザー加速XFEL実証」にて開発した小型アンジュレーター（電子線を加速する装置：プロジェクト1C）を社会実装するための評価を行うプロジェクト3L「マイクロアンジュレーター評価」において、国内で加速器を持つ機関のうち、アンジュレーターの評価を含め加速器・ビーム物理研究用の線形加速器の利用が認められている機関であり、

電子ビームやTHz波からX線ビームまで幅広い領域のフォトンビームの性能評価や運用に多くの実績がある当該機関を非公募（指名）により追加するもの。

（追加研究機関）

実施プロジェクト	研究機関名	研究代表者名
3L マイクロアンジュレーター評価	東北大学 電子光物理学研究センター	濱 広幸

・八木 PM：イノベティブな可視化技術による新成長産業の創出

「マイクロ可視化システム」プロジェクトにおいて、本システムのプロトタイプ機を開発する目的で、国内で唯一、光超音波顕微鏡システムを製品化し、皮膚計測に有効な特許3件を有し、リアルタイムと高解像度の実現に必要な高周波数信号処理技術に強みを持つ当該研究機関を、非公募（指名）により追加するもの。

（追加研究機関）

実施プロジェクト	研究機関名	研究代表者名
マイクロ可視化システム	(株)アドバンテスト	増田 則之

2. PMによる研究機関の資金配分の変更について

本件は、下記の2名のPMから、PMに関係する機関の研究開発資金の配分変更に関する申請があり、IMPACT 推進会議に対して承認を求めるもの。なお、研究機関への資金配分の変更は、各研究開発プログラムの研究費総額の範囲内で行うもの。

PM	PMに関係する機関数	PM関係機関とPMとの関わり
合田	1	PM自身が研究担当者として所属
山本	1	PMが過去に所属した機関
合計	2	

・合田 PM：セレンディピティの計画的創出による新価値創造

細胞検索エンジン「セレンディピター」が目指している10,000細胞/秒の高速解析処理技術の早期実現のため、要素技術であるプロジェクト3「細胞計測技術開発」におけるイメージングサイトメーターや蛍光イメージングの高速処理、プロジェクト5「細胞分取技術」における細胞分取技術の高速化、高精度化を目的として、PM自身が研究担当者として所属する当該機関について予算配分の見直しを行うもの。

（研究開発資金の配分変更）

研究開発機関	研究開発責任者	推進会議で本機関を承認した日	当初予定研究資金(百万円)	変更後研究資金(百万円)
東京大学 大学院理学系研究科	合田圭介	平成26年10月30日	510	525 (+15)

・山本 PM：量子人工脳を量子ネットワークでつなぐ高度知識社会基盤の実現

プロジェクト1「量子人工脳」において、社会実装に向け当初計画したスペックを上回る10,000 スピン以上の大規模マシンの開発に向け、固体レーザーを含む、光損失の小さなパラメトリック発振器等の開発を行うため、PMが過去に所属しており、長年に渡り関連技術

の研究開発で世界をリードしている当該機関について予算配分の見直しを行うもの。

(研究開発資金の配分変更)

研究開発機関	研究開発責任者	推進会議で本機関を承認した日	当初予定研究資金(百万円)	変更後研究資金(百万円)
スタンフォード大学	Martin M.Fejer	平成26年10月2日	70	126 (+56)

以 上